「授業準備」実践例より

|  |  |
| --- | --- |
| **具体的目標の実施計画表** | |
| 1　教える行動を決めましょう | |
| 授業が終わったら，次の授業の準備をしよう | |
| 2　児童に伝える：「この行動を学ぶ理由」を考えましょう | |
| ・チャイムと同時に始まり，チャイムと同時に終わる。→休み時間の確保もできるから。  ・忘れ物に気付くことができ，休み時間中に借りにいくことができるから。  ・自分が授業中，困らないから。 | |
| 3 具体的な行動モデルを示しましょう | |
| 良い例 | 悪い例 |
| ・鉛筆1本，赤鉛筆1本，けしゴム，定規（朝），ノート，本，下じき（前時の教科書等を片付け，次時の教科書等）を出す。  ・早く授業を終わることができる。 | ・準備ができておらず，探し物をして授業に遅れる。  ・チャイムが鳴っても，授業が終わらない。  ＊悪い例は，児童が演じずに教師が演じる。 |
| 4 実際に練習するための具体的な計画を立てましょう | |
| （1）何も言わずに休み時間に突入。→チャイムが鳴り，着席。→自分の準備の状況を知る。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　クラス  （2）チャイムが鳴ってから，授業時間までにかかる時間をはかる。  （3）どうしてこの行動が必要だと思うのか尋ねる。  （4）悪い例を教師がロールプレイ。  どこが悪かったか児童に，発言をさせる→板書  丸つけ場面→　・忘れ物がある  　　　　　　　・机の上は，前の授業のまま  　　　　　　　・赤ペンがなくて，あたふた  　　　　　　　・となりの人にかしてー  　　　　　　　・どんどん授業が進んでいく  （5）良い例をみんなでやってみよう。  ･･･悪い例で出たもの，1つずつについて良い例を考え，行動をさせる  （6）フィードバック･･･業間をはさんで，3校時にできているかをチェック。  →となり同士で声をかけ合いチェックをさせる。 | |
| 5 期待される行動の手がかりを作成しましょう | |
| ・テレビに，「学びのてびき」（授業準備の方法を具体的に明記したもの）を映す。  ・月に1回程度全校で「学びのてびき」を用いて確認する日を認定する。  　「“準備しようデー”」，「“ふりかえりデー”」など。  ・黒板に「準備OK？」等の合言葉を貼る（休みじかん）  ・できたらポイントをもらえるようにする。  　→みんなが準備できていたら，はなまる1つをもらえる。  （児童が見ることができる所に貼っておく）  →はなまるは○個たまったら，ごほうびをもらえるようにする。  ・隣同士で，きちんと準備ができているかをチェックし合う。 | |
| 6 児童が自ら取り組む行動について計画しましょう | |
| ・連絡帳を見て，ランドセルに入れたものには，自分で丸をつけてチェックする。  ・家で毎日，鉛筆（5本）をけずってくる。  →できていたらごほうび | |
| 7 児童の行動変容を記録する方法を計画しましょう | |
| いつ：業間後の3校時  頻度：（クラスで時間割を考慮した上で）週2回  方法：となり同士ペアで確認又は挙手をしてもらう。  　　　何人できていたかの人数記録  　　　行動A：すべてできた　　行動B：忘れ物はあるが対処できている，申し出ている  　　　行動C：忘れ物はないが，準備できていない  　　　行動D：忘れ物をしていて，準備もできていない  ☆ふでばこチェック･･･中身の確認をする  「学びのてびき」で確認する日に一緒にする | |
| 8 望ましい行動に対する「ほめ方」を計画しましょう | |
| ・できた人数をポイントとして記録していく  ・目標数値○ポイントが達成できたときに，ごほうびを出す。  ・準備ができている  　忘れ物がない　　　　　　　から，気持ちよく学習できるね!とほめる。  　鉛筆がけずれている | |